

第3回愛知の文化芸術振興に関する有識者会議について

○日 時

3月22日(木) 14:00~15:30

○場 所

愛知芸術文化センター 地下2階 大リハーサル室

○出席者

別添一覧のとおり

1 会議内容

あいさつ(文化芸術課長)

2 議事内容

「あいち文化芸術振興計画2022」(案)について

○ 計画(案)は、県の文化芸術を力強く支える形になったと思う。その上で思ったことが2点ある。

1点目は、「愛知からの発信」、「愛知のアイデンティティ」についてだが、アイデンティティを作るには、発信するだけでなく、他を知らないといけない。愛知以外を知ることが重要である。計画(案)は全体的に内向きで、愛知にこだわりすぎているので、もう少し多様な文化芸術を認め合いながら、というトーンがほしい。条例第11条に、文化芸術に関する地域間交流及び国際交流の推進を図るため、と目的がはっきり書かれているので、文化芸術における地域の交流や国際交流を計画の中にもう少し盛り込めたらいいと思う。

2点目は、数値目標の評価においては、ガバナンスの責任が評価されるべきということだと思うので、条例第20条の予算措置を含めたガバナンスの評価が必要であり、ガバナンスの責任が具体的に記載されるとよいと思った。

○ 計画(案)に新しい基本目標を盛り込んでもらいたい。全体として概要はよいが、予算的な措置をどのくらい獲得していけるか、計画には書かれておらず分かりにくいと思った。また、目標とするタイムライン、いつまでに何を達成する、という細かな目標があってもいいと思った。

さらに、情報発信していく中で愛知県内はインフラが薄いと思うので、3つの基本目標をそれぞれどのような手段で情報発信していくのがいいのか、何が足りないのかという記載が少ないと思った。

○ 全体的な感想として、これだけよくまとめたという印象を持ったが、同時に、内向きという印象も持った。こういうところでは、もう少し積極的に書いてもよい。

数値目標の中に、「愛知に誇ることでできる文化資源があると考える人の割合」という項目があるが、アンケートは聞き方や捉え方により大きく左右されるという恐さがあると思う。文化資源と言われてピンとくるか。県政世論調査結果(55ページ)では、参加した文化芸術活動が「一つもない」と答えた人が85%と残念な結果だが、カラオケをした人は含まれないのか。発想の転換をするというのも一つだと思う。アンケートにおいて文化芸術をどう捉えるか、それが気付きに繋がると思う。

また、連携について多く記載されているが、それらをどうやって評価するのか。

総合的に絡み合っているものを、小さな一つ一つができていくかで評価してはもったいない。評価の仕方、組み立て方が重要である。

- これから5年間の計画ということなので、もう少し具体的な内容を書き込むとよいと思った。

県とJRが共同で実施する「愛知デスティネーションキャンペーン」（「そうだ、京都に行こう」のような宣伝）をうまく使い、発信するチャンスにするとよいと思う。半田や犬山などの山車はトップレベルであり、愛知は素晴らしいものを持っているが、市町では情報発信が弱い。県が情報発信の部分を担うことが重要であり、それが連携になる。

- 今までの意見が反映された計画(案)になっている。

基本課題(9)の「様々な分野」という表現が分かりにくいと思った。実務に落ちてきたときに行政計画の壁を越えていける文言であることが望ましい。

評価のしかたについては、量か質かという問題があるが、量的調査から質的を測るという調査の仕方が必要だろう。一切足を運ばなかった人たちがなぜそうなったか、非来場者調査をやってみると面白いことが分かると思う。

今後、学習指導要領にアウトリーチが入るだろうが、そうなると、需要と供給が逆転することがあり得ると思う。アーティストにとってアウトリーチが逆効果になるという声もある。芸術大学に通っていない若手アーティストにどう目を向けていくかが今後の課題になるだろう。

- 条例を制定することができてよかった。愛知県もようやくという感じである。これをどのようにしていくかが今後の課題であり、市町村等にどう落としとしていき、しっかり活動してもらえるかが重要であり、それには財政措置と、縦割行政の中にどう文化芸術を入れていくか、時間と労力が必要である。

また、この先の文化芸術は、デザインを中心とした動きになっていくのではないかと思う。愛知県は企業が活発で、すべてにデザインが絡んでいると思うので、そこをうまく繋いでいけば愛知の特徴が出てくる。施策の中に、プラスアルファとしてデザインがあるとよいと思った。

- 総じて言えば、うまくまとめていただいたと思うが、2点、気になった点がある。

1点目は、「県民の育成」という人材育成の観点についてである。条例第4条は、県民一人ひとりが、互いの文化圏を尊重し、地域の文化を継承する担い手として自覚するという趣旨を含むものである。計画(案)の基本目標3の中に、県民一人ひとりが担い手となっていくように働きかける「文化の担い手としての県民づくり」という内容を追加すると、より力強い計画になると思う。

2点目は、計画の指標と目標があっていないことである。基本目標1の「世界・未来へ愛知発の創造・発信」という目標に対しては、世界の中で愛知がどのくらい取り上げられるようになったか、愛知からの刺激を受けて未来に向けどうなったか、

といった指標が考えられるのではないか。また、施設来館者数は、関心のある人が何度も来るだけだが、本来は、参加した文化芸術活動が一つもない人が減ることが大切である。国はカラオケも項目に入れている。目標を測れるような指標を作ることが重要である。

- 分野横断的な政策の予算措置について補足すると、例えば、高齢者や障害者という分野において、必ずしも文化芸術課が予算をとらなければならないというのではなく、それぞれの事業の中で文化関係の事業をやってもらうように働きかけることが大切である。そして、情報、人材、ノウハウを文化芸術課がサポートすることが大切である。
- 数値目標について。文化芸術の分野において、明確な数値を出すのは難しいことだ。数字にこだわる必要はない。数字と文化の質は別である。しかし、文化芸術が理解できない場合などに数字で説明することもあり、数字で表すことができる部分に特化してやっていくということもあるだろう。
- 県民の意識調査は大事だ。提案として、5年に一度くらい、愛知県の文化芸術基本動向調査を行い、美術館、劇場の数、劇場の席の数の変遷等を把握するとよいと思った。例えば、県美術館ギャラリーの利用率は開館以来ずっと100%だが、ギャラリーに来る人は、20年で80万人から40万人と半減している。また、文化芸術関係予算の変遷や動向を把握することで、テコ入れしたり、手を打たないといけない部分がどこなのかが見えてくるのではないか。計画・立案のベースに使えると思うので一度考えてはどうか。
- 名フィルは世界に発信するオーケストラだが、演奏のデジタル化についても考えてほしい。日本ではN響がNHKに出るだけだ。パナソニックがベルリンフィルと連携して映像配信しているが、企業とのタイアップにも繋がると思う。
- これから5年間、2022年度までの計画について、これまで条例に寄り添った形で議論してきた。総括的にはよくできているが、本日の意見を少しでも反映できる場所があれば反映してもらいたいと思う。